



株式会社 財コンサルティングは、2018年6月29日に金融庁より公表された「投資信託の販売会社における比較可能な共通KPIについて」にもとづき、「運用損益別顧客比率」「投資信託預り残高上位20位銘柄のコスト・リターン」「投資信託預り残高上位20位銘柄のリスク・リターン」の状況および当社自主的KPIを以下のとおり取りまとめましたのでお知らせいたします。

数年前より金融庁が提唱し始めた【顧客本位の業務運営】。金融事業者は、単に金融商品を販売するだけではなく、さらに金融商品の販売量を競い合うのではなく、お客様にとってどれほど有益なサービスを提供できているのかが問われ始めたことは、我が国の金融業界にとっては大いなる前進と私たちは捉えています。

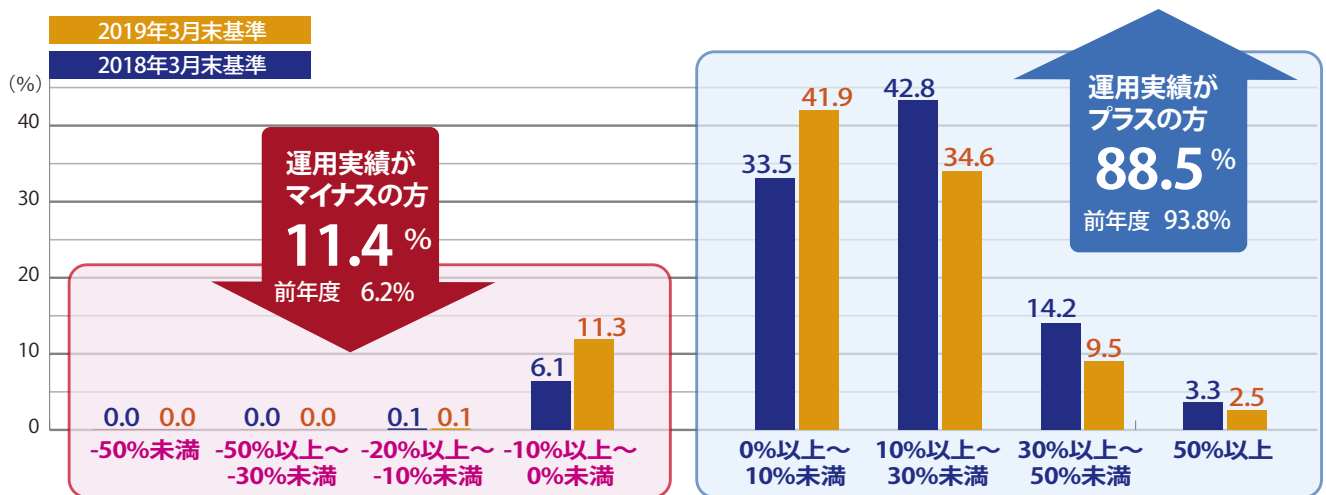
【顧客本位】をそれぞれの金融機関が独自に思考し、各社各様での取り組みが始まりました。こうした取り組みが形骸化し、一時的なブームに終焉せぬよう、金融庁は金融機関ごとの当該取り組みを利用者にも見える化するために、「共通のものさし(共通KPIと称しています)」を策定しました。

今後、各金融機関が共通のものさしを競い始め、利用者が単なる規模の大きさやネームバリューなどの合理的な根拠に基づかない慣習や思い込みで金融機関を選定するのではなく、当該共通のものさしで以って、金融機関のサービスや姿勢等を推し量る社会の到来に期待したいと思います。

株式会社 財コンサルティング
代表取締役 稲葉 克

運用損益別顧客比率

共通 KPI



2019年3月末時点。運用損益は基準日時点の評価金額 + 累計受取分配金額(税引後) + 累計売付金額 - 累計買付金額(含む消費税込の販売手数料)を基準日時点の評価金額で除して計算しています。保有期間中に移管等による入出庫があった場合、その投資信託を除いて算出しています。また外貨建MMFは計算に含まれていません。(資料提供:PWM日本証券株式会社)

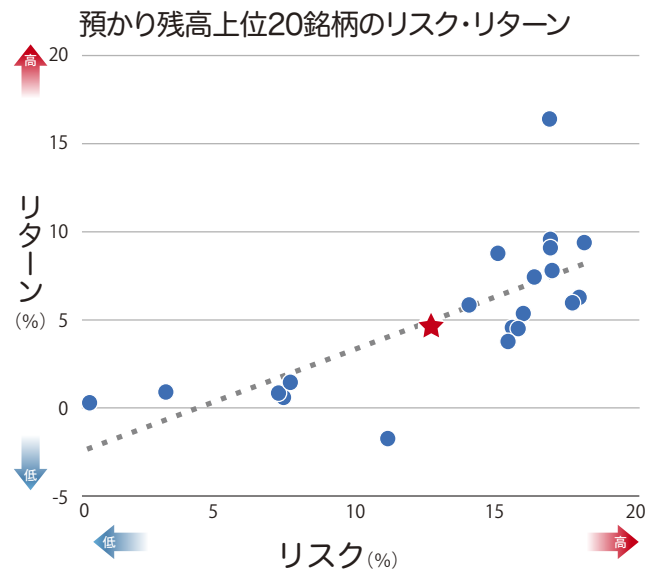
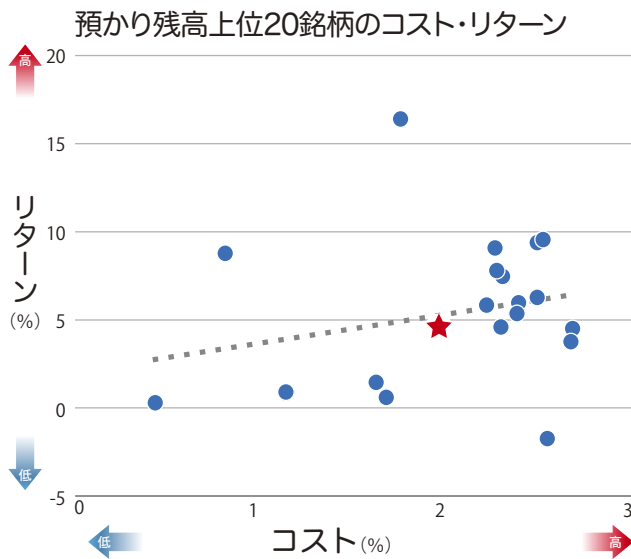
上図にあるように2019年3月末時点で当社に口座を有するクライアントの運用実績を計算すると、0%未満(損失を抱えるクライアント)が11.4%、他方88.5%のクライアントが評価益を抱えています。

今回の運用損益別顧客比率が前回は下回ったのは、全クライアントが【長期】【分散】【積立(分割)】投資をしている結果として捉えることができます。というのも昨年の世界の株価の変動は、概ね2018年3月末より上昇し、9月にピークをつけ、その後12月に向けて下落し、年明け以降2019年3月末に向けて戻るといった推移です。昨年1年間の株価の動きは、相場で言うところの「行ってこい」状態でした。積立投資を継続すれば、上昇期には買付口数が減少するため、最終価格に変化が無ければ(2018年3月末の株価と2019年3月末の株価が大きく変わらない)、1年間に投じた資金の運用損益はマイナスになります。特にいまだ運用金額が小さな投資期間の短いクライアントについては、運用損益がマイナスに転じることになりました。価格(株価)の変動のみが運用損益を左右する一括投資(特定の時期に資金を一括投下し、投資信託を買付ける)と異なり、積立(分割)投資に関しては、積立期間中の価格の変動が買付口数の増減を生じさせるために、期間中の価格(株価)の変動プロセスもまた運用損益に影響を与えることになります。

預かり残高上位20銘柄のコスト・リターン/預かり残高上位20銘柄のリスク・リターン 共通 KPI

2019年3月末

基準日2019年3月末現在



..... 図の点線は回帰直線
資料提供:PWM日本証券株式会社

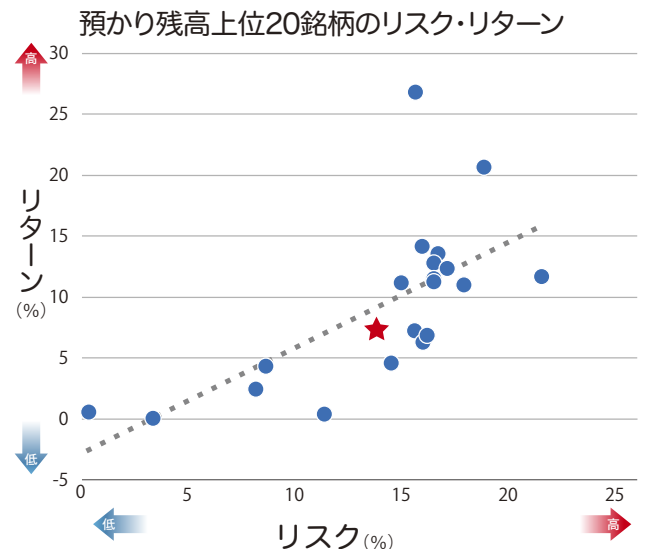
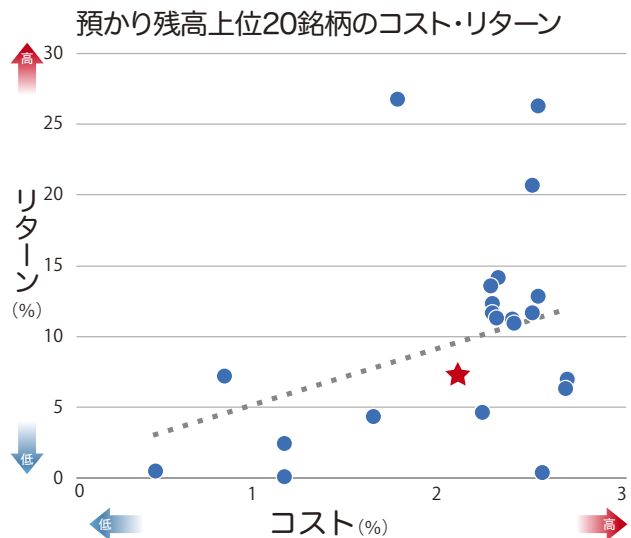
..... 図の点線は回帰直線
資料提供:PWM日本証券株式会社

★ 残高加重平均値	コスト	リターン
	1.96%	4.61%

★ 残高加重平均値	リスク	リターン
	12.52%	4.61%

2018年3月末

基準日2018年3月末現在



..... 図の点線は回帰直線
資料提供:PWM日本証券株式会社

..... 図の点線は回帰直線
資料提供:PWM日本証券株式会社

★ 残高加重平均値	コスト	リターン
	2.08%	7.31%

★ 残高加重平均値	リスク	リターン
	13.39%	7.31%

- ・預り残高上位20銘柄(設定後5年以上)
- ・自社取引、他社への仲介取引・紹介取引による残高を同一銘柄について合算のうえ、上位20銘柄を抽出
- ・DC専用、ファンドラップ専用投信、ETF、上場REIT、公社債投信(MRF、MMF等)、私募投信は除く。単位型は含む。
- ・外貨建て投資信託は除く

(資料提供:PWM日本証券株式会社)

預かり残高上位20銘柄の詳細

共通 KPI

2019年3月末

1 グローバル・ボンド・ポート (Cコース)	11 アジア製造業ファンド
2 フィデリティ・米国優良株・ファンド	12 グローバル・ボンド・ポート (Dコース)
3 JPMザ・ジャパン	13 ダイワ・バリュー株・オープン (底力)
4 フィデリティ・欧州株・ファンド	14 インベスコ ジャパン・エンタープライズ・オープン
5 三菱UFJ海外債券オープン (3ヵ月決算型) (四季の恵み(海外債券))	15 フィデリティ・日本成長株・ファンド
6 メロン世界新興国ソブリン・ファンド (育ち盛り)	16 DLIBJ公社債オープン (短期コース)
7 エマージング株式オープン	17 フィデリティ・アジア株・ファンド
8 SMTグローバルREITインデックス・オープン	18 シュローダー・エマージング株式ファンド (1年決算型)
9 ワールド・リート・オープン (毎月決算型)	19 Jオープン (店頭・小型株)
10 ブラックロック・USベーシック・バリュー・オープン	20 【アバディーン・スタンダード・ファンド・セレクション】 海外高格付け債ファンド Bコース (為替ヘッジなし)

2018年3月末

1 JPMザ・ジャパン	11 アジア製造業ファンド
2 グローバル・ボンド・ポート (Cコース)	12 ダイワ・バリュー株・オープン (底力)
3 フィデリティ・米国優良株・ファンド	13 グローバル・ボンド・ポート (Dコース)
4 フィデリティ・欧州株・ファンド	14 インベスコ ジャパン・エンタープライズ・オープン
5 エマージング株式オープン	15 フィデリティ・日本成長株・ファンド
6 メロン世界新興国ソブリン・ファンド (育ち盛り)	16 DLIBJ公社債オープン (短期コース)
7 三菱UFJ海外債券オープン (3ヵ月決算型) (四季の恵み(海外債券))	17 Jオープン (店頭・小型株)
8 ワールド・リート・オープン (毎月決算型)	18 フィデリティ・アジア株・ファンド
9 ブラックロック・USベーシック・バリュー・オープン	19 シュローダー・エマージング株式ファンド (1年決算型)
10 SMTグローバルREITインデックス・オープン	20 日本株・アクティブ・セレクト・オープン

上図の預かり残高上位20銘柄について20番目の銘柄が2018年3月末と2019年3月末とでは違っていています。

但し、当社の預かり資産に占める20番目の銘柄の構成比は0.06%に過ぎません。預かり資産の大半は上位10位までの銘柄群が占めており、2018年3月末と同様です。当社のクライアントの保有銘柄の大半は2019年3月上位8銘柄で構成されていますが、基本的には単体銘柄での買付はなく、当社が勧めるポートフォリオに基づき、複数銘柄買付を定時定額で行っています。同一複数銘柄を長期間に亘って買付していただくことにより資産形成に役立てると考えています。



財コンサルティングは「5つの約束」の中でクライアントの「口座開設来からの総入金額と総出金額」と「預かり時価総額」「顧客数」を公表するとしております。直近のデータを公表するとともに2018年6月29日に金融庁より発表された「投資信託の販売会社における比較可能な共通KPI」に示された3つの指標についても公表致します。

口座開設来からの総入金額と総出金額

(2019年3月末 現在)

総入金額 **265.46** 億円 総出金額 **22.29** 億円

頻繁に商品を乗り換えず、継続さえすれば、多くの場合資産形成は成就されています。そして、リスクを抑えることができる「少額投資」「分散投資」「積立投資」「長期投資」を推奨することで、投資初心者でも容易に投資運用を始め、かつ継続することができると財コンサルティングは信じています。私どもの理念に賛同していただいた多くのクライアントが投資を実践されているため「総入金額」に比べ「総出金額」が極めて少ない状態になっています。

預かり時価総額

預かり時価総額
291.35 億円 → **296.02** 億円 **1.6% 増加**
(2018年9月末 現在) (2019年3月末 現在)

当社の預かり時価総額は2018年9月末時点に比べ1.6%増加致しました。当社が推奨するポートフォリオは「わかりやすいポートフォリオ」を心がけており、ポートフォリオの組み入れ銘柄の入れ替えは最小限としています。

顧客数

(2019年3月末現在)

顧客数 **16,190** 人 (保険契約のみの顧客数も含みます)

当社の顧客数は2013年に初めて1万人を超えて以降、順調に推移しています。また、資産形成期の顧客が大半を占めており、若年層が多いと言えます。